

国土交通省独立行政法人評価委員会

第12回国際観光振興機構分科会

平成20年8月1日（金）

【観光渉外官】 それでは、定刻でございますので、ただいまから国土交通省独立行政法人評価委員会第12回国際観光振興機構分科会を開催させていただきます。

本日は、委員の皆様方にはご多忙の中お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

初めに、本日出席をいただいております委員の先生方、及び事務局側参加者につきましては、お手元の座席表がございますので、ご確認をお願いいたします。現在、西浦先生、ちょっとおくれておられますようですが、本分科会の定足数でございますけれども、分科会の委員は8名であります。今現在、5名の委員にご出席いただいておりますので、過半数を超えております。議事を行うための定足数を満たしている状態です。

次に、本日の会議につきましては、国土交通省独立行政法人評価委員会運営規則により、平成19年度及び第1期中期目標期間業務実績の評価についての検討をすることとさせていただきます。

また、議事録等でございますが、これまで議事概要を委員会終了後、速やかに国土交通省のホームページで公表し、その後、議事録を作成し、同様の方法で公表してまいりましたが、今回も同じ手順を進めたいと考えております。議事概要では、主な意見について記載し、議事録につきましては、発言者名を記載しない等の措置を講じた上での公表になります。

続きまして、資料のご確認をお願いいたします。最初に、議事次第がございます。次に、座席表があります。次に、平成19年度業務実績評価調書（分科会長試案）と書いてございます。次に、中期目標期間業務実績評価調書（分科会長試案）。次に、平成19年度業務実績報告書がございます。次に、第1期中期目標に係る業務実績報告書。次に、平成19年度評価案の参考資料。次に、中期目標期間評価案参考資料という、この2つはA3の資料でございます。参考資料といたしまして、第11回国際観光振興機構分科会議事概要、前回の議事概要でございます。次に、国土交通省所管独立行政法人の業務実績評価に関する基本方針及び基本方針の判断基準に係る指針についてという資料でございます。最後に、

評価委員会の運営規則等をつけてございます。ご確認をお願いいたします。

平成19年度業務実績報告書及び第1期中期目標期間に係る報告書につきましては、政策評価官室からの指示もございまして、前回お配りしました報告書の中の随意契約に関する記述を補足してございます。付せんが該当部分に、この分厚い資料でございますけれども、ついてございますので、これが最新版ということになります。

また、さきの分科会でご報告させていただきました平成19年度及び中期目標期間業務実績評価に関する国民の意見募集につきましては、意見の提出がなかったということをご報告させていただきます。

それでは、以後の進行につきましては、分科会長にお願いしたいと存じます。よろしくをお願いいたします。

【分科会長】 よろしくをお願いいたします。

それでは、早速議事を進めさせていただきます。本日の分科会の議題は2つございます。1つは、平成19年度業務実績の評価を行うことです。2つ目は、第1期中期目標期間業務実績評価を行うことです。お手元には、分科会長試案の評価調書を事前にこの分科会の皆さんにご連絡して、あらかじめご意見を伺ったところでございます。その意見もその中に、資料に入っております。あとで事務局のほうから説明させていただきます。

それでは、まず、平成19年度業務実績調書につきまして、初めに、評価とその理由を確認していききたいと思います。

それでは、項目でご意見があれば、お願いしたいと思います。事務局からは項目ごとに評価と評価のポイントを説明していただきたいと思います。それでは、お願いいたします。

【国際観光課長】 では、事務局から、まず19年度の評価について、分科会長試案のご説明をさせていただきます。

まず、「業務運営の効率化に関する目標」でありますけれども、資料は1ページになります。19年度計画で、「業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」としまして、ビジット・ジャパン・キャンペーンに積極的に参画・貢献することにより、平成19年訪日外国人旅行者800万人を目指す。このために、VJCの事業推進チームの一員として、事業の策定、執行に参画する等の目標が定められていたところでありますけれども、これについては、評定としては「4」といたしたいと考えております。

昨年度、訪日外国人旅行者数835万人ということで、目標達成ということと、そのためには、JNTOについては、事業の提案、それから、策定、執行に当たって積極的な協

力を行ったということでございます。

それからこれは19年度の評価ということで、ここには記載してありませんけれども、19年の、ことしの4月にビジット・ジャパン・キャンペーン事務局については、JNTOに統合いたしまして、そのJNTOが名実ともにビジット・ジャパン・キャンペーンの執行を担うという体制が構築されたところでありまして、19年度からその移行のための準備、そういったことも進めていたところでもあります。

こういった単位でご確認いただけますが、もう少しまとめていきますか。

【分科会長】 重要なところはこういうふうにしていただいたらよろしいと思います。個別に一個一個まず押さえていって、あと、すぐ結論の出ないものは、後ほどもう一回ということやらせていただきます。最初の評価につきましては、いかがでございましょうか。何かご質問、意見、評価がえの意見とかございますでしょうか。よろしいですか。

では、次に行ってください。

【国際観光課長】 次は、「組織運営」に関する事柄でありまして、機構のビジョン&ミッションの実現を目指して、組織一丸となって業務に取り組む。それから、19年度については、次期中期計画の検討を行う。国内広報の強化、所長の自主裁量権の拡大等の目標が課せられていたわけでありまして、その次期中期計画の策定等のために、役員・部長クラスから中堅・若手レベルに至るまでの横断的な議論を行い、それから、その海外事務所の自主裁量権の拡大、それから、引き続きではありますけれども、海外事務所評価制度を運用して、業績の向上を図ってきたところでもあります。評定としては「3」ということで考えております。

【分科会長】 はい。これは普通ということですが、よろしゅうございますか。はい。

では、次へ行ってください。

【国際観光課長】 その次が、「職員の意欲向上と能力啓発」というところでありまして、その職員の能力と実績を評価して、処遇に反映させる。それから、海外事務所の現地採用職員についても、現地の物価水準等あるいは実績に対応した処遇を行って、意欲向上を図るということ。それから、研修プログラムの整備、充実を図ること。それから、自己研修を行う職員に奨学金等を支給する制度を活用すること、こういったことが目標として課せられていたところでありまして、評定としては「4」を考えております。

その理由でありますけれども、その職員の能力・実績の評価、処遇を行うとともに、海外事務所の現地採用職員についても人事考課に基づく処遇を行いまして、意欲の向上と開

発を図ってきたところであります。

この部分については、委員から、「4」ではなくて「3」ではないかという意見をいただいたところでもありますけれども、ここの職員の能力向上については、19年度について、その研修の種類、前年度の6種類から12種類に倍増させるとか、それから、外国語習得のための奨学金の利用者も、これも大幅に増えたというようなこともありました。それから、事業パートナーとの交流勉強会をこれは月に1回、開催するといったような取り組みも行っております。

それから、その海外事務所の職員について、これも非常に限られた予算の中ではありませんけれども、人材の流出を防ぐといったような意味からも、その予算をやりくりしまして、物価水準の上昇に対応するような処遇の改善も行ってきたところであります、ここは「4」ということで、すぐれた実施状況ということをお願いしたいと思っております。

【分科会長】 これ以後もあるんですけども、「事前に頂いた委員のご意見」という欄がありますが、これは具体的には委員お一人でございます。委員は、「修正を」というご意見ありましたが、今のように総合的に判断しまして、「4」ということにいたしますが、よろしゅうございますか。

【委員】 ちょっと評価のことで教えていただきたいんですが、この評価のうち、マイナス評価というのはありましたでしょうか。つまり、上位評価傾向にはなかったということですか。人事評価、5段階評価されておられますよね。どうしても評価というのは、導入しますと、評価導入はいいんだけど、結果的に運用の部分で、結局、上位評価になってしまうというところが。

【分科会長】 人事評価ですね。

【委員】 はい。ちょっと人事評価をここでお伺いしていいかどうかわからないんですけど、処遇に反映されるということで。

【国際観光課長】 ええ、それはもちろんあります。

【委員】 参考までにどれぐらいになりますか。

【国際観光課長】 割合は、トータルで、後ろのほうに出てくると思うんですけども。

【委員】 正確じゃなくても、大体の。

【国際観光課長】 3割程度が。

【委員】 普通に。

【国際観光課長】 ええ。

【分科会長】 要するに、かなりばらつきはあったんですか。上、下ともに。

【国際観光課長】 上下というか、この中期計画を通して、3割程度について、すえ置きか、減給ということで、人件費を削減したというようなことは聞いておりますので、特にその数字のところは確認させてごさいません。

【委員】 3割というのは人数ですか。

【国際観光課長】 ええ。人数ベースでですね。

【委員】 それが普通。

【国際観光課長】 それが人件費の削減に寄与したというようなことを聞いておりますので。

【委員】 これも確認したかったのは、その5段階評価を例えば入れた場合に、普通以上が95%とか、そういうことがよく起こりますので、それがなかったかどうかということだけ、ちょっと確認させていただきました。

【国際観光課長】 ええ。それはないですね。95%とかいう確率ではなくて、もっと下がった人が多かったと思います。

【委員】 そうですか。

【分科会長】 よろしいですか。

【国際観光課長】 すみません。ちょっとまたあとでさせていただきます。

【委員】 はい。あとで教えていただければ。

【分科会長】 はい。どうぞ。

【委員】 ちょっといいですか。たしかこれは、前回、私、欠席したのであれですけども、説明を受けたときに、現地採用の地元の方の人材の流出を防ぐために、特別手当をあげたりしたということを聞いたんですけれども、具体的にはそういう効果があったものなのか、そういうことがどれぐらいやられて、どれぐらい……。

【分科会長】 今までのボーナスですね。

【委員】 確かに、モチベーションがある人と、日本語がしゃべれて、日本のことを地元の人に紹介したりという人はかなり貴重な人材だと思うんですけどね。給料がそんなによくないということで、企業としてはもったいない話ですよ。どれぐらい対応策がとられて、その結果、どんなようになったとかという情報というのはありますか。

【国際観光課長】 これはちょっと一般的なお答えになるんですけども、その物価の水準の上昇が著しくなくて、かつ、ほかの企業からの引き抜きも激しくないようなところ、

具体的にはヨーロッパあたりであれば、10%とかそのぐらいの昇給があれば、とめることができると思います。ただ、この中国とかは、何しろ給料の上昇の割合が非常に高く、ほかの民間企業というのはどんどん上げますので、こういったところというのはやっぱり、これはもうJNTOだけじゃなくて、日本の大使館もそうなんですけれども、人材の流出をとめようとしてもなかなかそこに10%程度、給料を上げたからといって、人をとどめておくというのは難しいだろうなと思いますね。

【分科会長】 地域格差があるということですね。

【国際観光課長】 地域格差、はい。

【委員】 ということは、なかなかそういうニーズが高いということでは、効果が上がるということは確かにありますね。

【国際観光課長】 ええ。物価が高いところではなかなか引きとめるというのは難しいと。

【分科会長】 どこにでも通用する手法でもないということですね。なるほど。

【委員】 実際には多少いじくっても、ほとんど効果ないですよ。劇的な変化があれば別ですけど、そういう手はとれないですから。実際は非常に難しいと思うんですけどね。

【分科会長】 私なんかの経験から言うと、金よりも、人間関係も結構ありますね。

【国際観光課長】 あります。

【分科会長】 それはあんまり評価のしようがないのでね。

じゃあ、よろしいですか。じゃあ、次へ行ってください。

【国際観光課長】 その次が「業務運営の効率化の推進」というところで、まず、グループウェアを活用した情報の共有化、事務処理、決裁処理の簡素化を進めるということがありますけれども、これは評定結果としては「3」と考えております。これはサイボウズを活用しまして、効率化を行っております、着実な実施状況ということで認められてございます。

【分科会長】 順調ということですね。これはよろしいですね。

じゃあ、次へ行ってください。

【国際観光課長】 その次は、運営費交付金の削減、5%、これは14年度との比較で、5%削減。それから、一般管理費については、同じく14年度との比較で、13%程度の削減という計画が課されていたところがありますけれども、まず、一般管理費については、19年度計画額で、1,800万あまり削減させまして、14年度の比較では、17%、

13%を上回る削減を実施したところであります。さらに、役員報酬もさらなる減額を行ったところでありまして、すぐれた実施状況にあると認められますので、これは「4」をお願いしたいと思っております。

あわせて、運営費交付金対象業務経費についてでありますけれども、これも19年度の計画額を700万円下回る額でありまして、14年度との比較では、5%の目標を大幅に上回る、12.7%の節減ということで、これもあわせまして「4」をお願いしたいと考えております。

【分科会長】 数字上、そう思います。よろしいですか。

じゃあ、次、行ってください。

【国際観光課長】 次は、「人件費削減の取組み」でありますけれども、これは中期計画の途中から導入された目標でありますので、これは14年度じゃなくて、17年度比で、おおむね2%以上削減という目標になっております。これについても19年度の人件費について、既に中期計画における目標を達成しておりまして、2.2%減ということであります。すぐれた実施状況にあると認められますので、これも「4」をお願いしたいということでございます。

【分科会長】 よろしいですね。

その次は、評価はないんですね。2はないんですか。

【国際観光課長】 ええ。2は、以上が「業務運営の効率化に関する指標」でありまして、以下が、「国民に対して提供するサービス」と。

【分科会長】 ええ。2で、個別にはその下にある。

【国際観光課長】 個別には、その下の調査のところからでございます。

【分科会長】 お願いします。

【国際観光課長】 まず、「重点的な調査研究活動とその結果を活用した事業展開」ということでありますけれども、ここは数値目標がありまして、19年度は、14年度実績に比べて、22%増加させるという目標が課されていたところでありますけれども、この新規情報掲載量についての目標は、19年度達成いたしました。それから、昨年から引き続いて、賛助団体・会員に対して、海外事務所長による個別相談会を、これは年2回、10月と2月に実施しておりまして、すぐれた実施状況にあると考えられますので、委員からは、特に4とは評価しにくいというご意見をいただいているところでありますけれども、4をお願いしたいと思っております。

【分科会長】 よろしいでしょうか。

じゃあ、次へ行ってください。

【国際観光課長】 その次は……。

【分科会長】 今のところ、わかりますか。19年度の。ちょっとご指摘。

【国際観光課長】 今、19年度の評価の分科会長試案の説明で、4ページに入るところでございます。4ページの上のところの欄ですが、「外国人旅行者の来訪促進に係る方策」ということで、これはウェブサイトについて、アクセス件数を、19年度は14年度実績に比べて、150%増加させるという目標でありますけれども、ウェブサイトについては、コンテンツを大幅に見直しまして、写真の投稿だとか、人気投票など、参加型のツールも整理いたしました。それから、中国語圏への情報発信の強化、それから、フォトライブラリーの拡充、こういったことを通しまして、アクセス数については、目標を大幅に上回る実績となっております、それから、もう一つのメディア向けの広報についても目標を上回る達成具合となっておりますので、これはすぐれた実施状況ということで、「4」をお願いしたいと思います。

すみません。メディア向けの広報についても、真ん中の欄ですけれども、数値目標がありまして、メディア向けの広報活動については、19年度は87億1,000万円ということで、目標が課されていたところであります。これも達成したということで、4をお願いしたいと考えております。

【分科会長】 ちなみにこれは、先生の評定も、これは同じなんですか。

【観光渉外官】 これは「4」でございます。

【国際観光課長】 これについては異論はなかったと。

【観光渉外官】 これについては肯定的なご意見をいただいているということで掲載させていただいております。

【委員】 すみません。今、日経でちょうど連載中ですよ。あれはどういうアプローチの仕方をなさったんですか。

【国際観光課長】 日経に対してですか。

【委員】 ええ。

【国際観光課長】 あれは特にこちらからアプローチはしていませんね。JNTOも別にしていませんね。取材はしているんですけど。

【分科会長】 あれはやっぱり時代の流れですね。

【委員】 ああ、そうですか。

【国際観光課長】 日経からの直ですよ。北大に対するものというのは、35回の連載で。

【分科会長】 あれはやっぱり時代の流れです。追い風ですね。

【委員】 はい。ありがとうございます。

【分科会長】 じゃあ、よろしいですね。

【国際観光課長】 その次ですけれども、「訪日ツアーの開発・造成・販売に対する支援事業の実施」ということで、あれですけれども、こちらのほう、訪日ツアーの開発・造成・販売について、各市場の特性に応じまして、商品化に向けた招聘事業、それから、セミナーの開催を実施しております、それから、旅行見本市においても積極的に出展しているところでありまして、着実な実施状況ということで、「3」の評定で考えております。

【分科会長】 これは特に「4」と威張るほどではないということですね。やって当たり前と、こういうことなんですね。

【国際観光課長】 はい。

【分科会長】 よろしいですか。

じゃあ、次に行ってください。訪日ツアーの話。

【国際観光課長】 はい。次は、訪日ツアーの販売支援、これは数値目標が課されておりました、海外旅行会社に対する訪日視察旅行、商談会のアレンジ等の直接支援によって、集客数を9.1%増加させるという目標であります。訪日ツアーを販売する旅行会社に対して、セミナーの開催、それから、eラーニングの整備等の支援を行いまして、それとあわせて、そのJTSプログラム。JTSというのは、ジャパン・トラベル・スペシャリストという認定をされる資格でありますけれども、そういったプログラムの推進を行いまして、ツアー造成件数も目標を上回るということで、着実な実施状況にあるということで、「3」と考えております。

【分科会長】 これも同様ですね。

【国際観光課長】 はい。これは着実に。

【分科会長】 やって当たり前という。わかりました。

じゃあ、次。

【国際観光課長】 はい。その次、③でありますけれども、「外国人旅行者の受入体制の整備支援事業」ということで、1枚、ページをめくっていただきまして、数値目標が課

されているところであります。平成18年度末で、全国155カ所のビジット・ジャパン案内所について、80カ所程度増加させることを目標に取り組むということでもあります。これは80カ所が目標だったわけですが、結果としては、60カ所の増加にとどまったわけでもあります。ただ、その80カ所の増加ということで、目標を課されたわけですが、ここの評定理由のところに書いてございますけれども、一度、数値目標で設定された目標を達成したところ、さらにもうちょっと野心的な目標ということで、80カ所ということに課されたわけでもありますけれども、それは達成できなかったわけでもあります。が、ことしの6月末時点で、さらに9カ所、新規に設定をして、今後の増加も見込まれるところであります。

それから、その案内所のネットワークの充実を図るために、その案内所の登録にかかる経費負担の軽減も行いまして、そういったことも通して、昨年は60カ所増えたわけでもありますけれども、そのほかに、案内所のための、案内所のレベルを全体的に上げるための研修会の実施だとか、そういったことも通して、案内所の質の向上、連携強化に努めてきたところであります。

これは委員からは、「2」という評価の意見をいただいているところでありますけれども、今、述べましたようなことを勘案いたしまして、「3」という評定でどうかということと考えております。

【分科会長】 これはあれですね。途中で背伸びしたけれども、背伸びし過ぎたと。目標はほんとうは達成していたと。そういうところで。

【国際観光課長】 ええ。意外と達成して。

【分科会長】 プラマイなしということにしたということですね。

【国際観光課長】 はい。

【分科会長】 ということなんですけど、よろしいですか。

では、次。

【国際観光課長】 その次は④で、国際コンベンションの誘致支援事業でありますけれども、目標としては、数値目標が掲げられておりまして、会議開催決定権者の招請事業の実施等の結果で、誘致に成功した国際会議あるいはインセンティブ旅行を19年度は、会議で70件、インセンティブ旅行では274件とするということでもあります。それから、この国際会議の誘致開催の支援については、昨年5月末に、国の取り組みのためのプログラムが取りまとめられたところでありますけれども、そういったプログラムを踏まえて、

国、関係機関と連携して、誘致に取り組むということも大事な点でありました。

J N T Oとしましては、J N T Oのデータベースを活用しまして、開催可能性が高い国際会議をリストアップしまして、国交省とともに都市を、これは取り組みに非常に積極的に取り組んでいる都市を訪問しまして、誘致戦略を立てて、きめ細かい誘致活動を実施してきたところであります。

それから、J N T Oのウェブサイトで、その会議の学会だとか協会とかの開催誘致にかかるサポートのニーズを把握するためのウェブサイト上の受付を始めまして、こういったことで、きめ細かな対応を始めたところであります。

それから、ビジット・ジャパン・キャンペーンとも提携しまして、見本市出展事業で、日本ブースを形成して、P Rに努めてきたところであります。こういったことを踏まえまして、国際会議の誘致支援については、すぐれた実施状況にあるということで、「4」をお願いしたいと思います。

【分科会長】 何か委員は特にこれはおかしいとかありますか。おかしいというふうに。

【委員】 いや。

【分科会長】 大丈夫ですか。いいとおっしゃるなら大丈夫でしょう。よろしいですか。皆さん。いや、これは判断が非常に難しいところなんです。

【委員】 難しいと思いますね。ここに書いてある中期目標の件数とか、それはそれで、ただ理屈であって、国民の目から見て、あまり何か……。

【分科会長】 そうそう。そういうふうにいる物差しは、何といたしますか、ここで決められている物差し以外の、社会的な物差しがどうも頭にちらつくとですね。

【委員】 あまり実感ができないというか。

【分科会長】 多分、そう思っているんじゃないかと思って、今ちょっと声をかけたんですけど、そういうことはあります。ただ、数字である限り、そうなのかなということなんです。

【国際観光課長】 今のご意見はよくわかりました。ちょっと補足しますと、これは確かに数字でノルマを達成したというだけではなくて、この国際会議の誘致については、この2年ばかり急に脚光を浴びたというか、重要施策ということで浮かび上がってきたわけでありまして。

【分科会長】 安倍さんのときですね。

【国際観光課長】 そうです。2006年のときですね。

【分科会長】 私、あれで駆り出されたのを覚えています。すごい、五十何人の委員会で。

【国際観光課長】 ええ。国交省も、この2年間、いろいろ手探りで、その取り組みの体制を整えてきたところでありますけれども、その過程でJNTOも一緒に、このデータベースの構築ですとか、それから、積極的な都市回りだとか、そういった取り組みを国交省と、ほんとうに連携して進めてきたというところをぜひ評価いただきたいと思います。

【分科会長】 社会的な物差しというか、常識というのが一方ではあるので、今、後半ご説明されたようなことは、どこかで公表いただいたほうがいいですね。

【委員】 それをどうするかですね。

【分科会長】 ええ。そのほうが一般にわかりやすいと思います。

【委員】 そういう意味では、この受け入れ体制のほうも、確かに目標からすると、これでいいのかなと思いますが、しかし、実感として、日本の受け入れ体制というのは非常に遅れている。

【分科会長】 まだまだ。いまだしてですね。

【委員】 それを国民というか、一般的に、この評価が出た場合に、この細かなところまで読み込んで理解されたいんですが、答えだけ見て、こんなものでいいのかということになったときにどうするかということを、ちょっとあとで少し皆さんにご意見を伺いたいと。

【分科会長】 ちょっとその辺を留意して、資料をしていただけますか。

【国際観光課長】 受け入れ体制のところはちょっとまた話が違って、やっぱりJNTOだけでできる話じゃないんですね。これは自治体ですとか、事業者さんの取り組みがまた重要となりますね。

【分科会長】 だから、そこにまで何か、ああ、もういいかという安心をさせるほうがむしろ罪だというね。

【委員】 ええ。コンベンションも同じで、決してJNTOだけの力ではなくて、もう日本全体の、それを……。

【分科会長】 そうそう。ただ、あまり軽々しく安心させることはないということですね。

【委員】 ただ、やはりこのごろ世論の見方というのはものすごく厳しいものがあるので、そこら辺をどういうふうに考えるかということ、あとでもしお時間があれば。

【分科会長】 ちょっとその辺工夫をしていただけますか。

どうぞ。

【委員】 例えば、この成果が上がった部分に関して、例えばこういうふうなものが、会議が誘致できたとか、何か固有名詞があったりすると、イメージができると思うんですよね。

【分科会長】 そういうのもちょっとやっぱり……。

【委員】 もし積極的に評価するのであれば、その根拠になるものがね。

【分科会長】 別にPRマンになれとは言わないけど、やっぱり一般向けにPRするという意識をもう少しわかりやすくしていただいたほうがいいですよ。せっかくやったということですから。

【国際観光課長】 わかりやすい例ということで言うと、つい先日ですけれども、7月の17日に、ジャンボリー、ボーイスカウトの。

【分科会長】 ああ、山口のね。

【国際観光課長】 ええ。あれを山口にですね。

【分科会長】 濟州島で逆転勝利しましたね。

【国際観光課長】 成功しました。シンガポールと争ったんですけれども、これはJNTOもその現地、濟州島に観光展でのブースを出したりして、情報提供が行われまして、それまでもいろいろ招請事業などにも協力してきたところなんですけれども、この会議は、3万人ぐらい外国の参加者がいるという大規模な会議で、非常に。

【分科会長】 15年でしたよね。

【国際観光課長】 15年ですね。

【分科会長】 下馬評では、2・8ぐらいで負けということだったんですけれども、最後に踏ん張って、濟州島で最後の……。

【国際観光課長】 総会と。

【分科会長】 総会と言うんですかね。が行われて、山口から私も知っているスタッフも行ったんですけど、逆転勝利だという、歓喜のメールが来まして。こういうのはやっぱり入れたほうがいいですね。

【委員】 入れてあると、なるほどなど。なかなか外から見えにくいですよ。

【分科会長】 そうそう。じゃあ、お願いします。

【国際観光課長】 はい。

【分科会長】 じゃあ、次へ行ってください。

【国際観光課長】 次は、通訳案内士試験事務の代行でありますけれども、これは具体的な計画としては、新規追加免除科目、地域限定通訳案内士への対応と、それから、願書申請のシステム化、インターネットによる対応ということが求められていたわけでありまして、科目別の合格免除、それから、地域限定案内士試験による受験者属性、これは合格している科目の受験を免除するということでありまして、受験者属性が非常に、140通りとか書いてありますけれども、そういった複雑な数、複雑な制度になったわけでありまして、それに対応しまして、それから、24時間対応の電子申請システムの導入をしたということで、受験者数も増加しております、すぐれた実施状況ということで考えたいと思います。

これは委員からは「3」という意見をいただいておりますけれども。

【分科会長】 ええ。「4」だと思います。これは私も、その大もとの試験のほうの管理をしておったもので、この試験制度を変えるのには、相当いろいろありまして、当時はJNTOの方を私は鬼のように思っていたんですね。多分そういうことになると、我がほうの仕事はどうなるんだと、つるし上げられたんですけど、このように変わりました、実施できるか、できないか怪しいという状況だったけど、よくやっていただきましたね。ほんとうに、それこそ下馬評では、これは大変なことになるだろうと。今までの試験というのは、ほんとうにもうお役所のやる試験で、もうそれが地方に増やすわ、今度は海外でもやっているんでしょうかね。

【国際観光課長】 そうですね。

【分科会長】 海外でも試験をやるわ。国籍条項がないから、外国人でも受けられますよ。普通、日本の政府がみんな嫌がるようなことを全部やったんですよ。だから、これは、委員は何と言おうと、僕は立派だと思います。お願いします。

【観光課長】 ありがとうございます。

次は、業績評価の充実ということで、これは盛り込まれている事柄としましては、前年度同様にアドバイザー・コミッティーの開催、それから、事業パートナーを対象とした顧客満足度調査の分析に基づくPDCAサイクルの実施、こういったことが求められていたわけでありまして、これは引き続き外部有識者による業績評価の実施、それから、顧客満足度調査の分析結果をもとにしたPDCAサイクルの実施等、着実な実施状況にあるということで、「3」と考えております。

【分科会長】 これもやって当たり前ということですね。

次へ行ってください。

【国際観光課長】 次は、人事考課の徹底でありますけれども、定期的に職員の能力と実績を評価して、処遇へ反映させるということ。それから、職員の研修の充実、人事ローテーション、OJT等により職員の知識の習得能力の向上を図るということでもありますけれども、これは身上申告書、面談を通じまして、職員の意向、意欲を把握して、管理、それから、配置展開、異動に反映しているところであります。それから、職員を対象にした各種プレゼンテーション、勉強会といった研修の実施を行っております、これも「3」という着実な実施状況にあるということで考えております。

【分科会長】 よろしいですね。

はい。次、お願いします。

【国際観光課長】 それから、外部人材の活用ということでもありますけれども、これは賛助団体、会員などのニーズを適切に反映させるという観点から、地方公共団体、観光関連団体から積極的な受け入れを進めているところでありまして、着実な実施状況にあると考えております。特にことしの4月にビジット・ジャパン・キャンペーン事務局の機能を吸収したわけでもありますけれども、それを機に、またさらに民間、それから、自治体からの受け入れも増えたところであります。これは「3」ということで考えております。

【分科会長】 実際はあれですか。VJC事務局に相当出向してきたと言っていましたね。

【国際観光課長】 ええ。

【分科会長】 あれは事務局が変更になって、どれぐらい減ったんですか。帰っちゃったんですか。

【国際観光課長】 要するに、民間からも、今まで8人、出向と、民間の件数負担で来ていただいていたんですけれども、8人は、ちょっともう勘弁してくれという話だったんですが、これをゼロにするわけにもいかないので、4人。

【分科会長】 4人残ったんですか。そうですか。

【国際観光課長】 はい。4人、JNTOにいます。人がかわって、移ったというケースもありますけれども、数としては4。

【分科会長】 ゼロになってもしょうがないわけですね。

【国際観光課長】 はい。

【分科会長】 はい。わかりました。次に行ってください。

【国際観光課長】 次は、「海外の在外公館等関連機関との連携の強化」でありますけれども、海外のビジット・ジャパン・キャンペーンの現地推進会、これは大使ですとか総領事が会長を務めている組織でありますけれども、事務局はJNTOの海外事務所が務めております。それから、在外公館、それから、ほかの機関との連携の緊密化、特にJETRO国際交流基金との連携の強化ということを進めてきておりまして、これは工藤委員からは、定性的なもので、評価しにくいので、「3」と。3年連続と「4」と言える理由はないということで、3ということでは言われているんですが、これは独法の予算が非常に厳しい制約を受けている中で、ほかの組織と連携を深めて、人のふんどしで相撲をとる的な仕事のやり方を進めるといのは、これは最優先で、特にJNTOのような所帯の小さいところで優先的に進めてきているところでありまして、これはすぐれた実施状況ということで、4をお願いしたいと思っております。

【分科会長】 私はある程度わかっているのですが、「4」でいいと思うんですけど、これも何か数字があるとほんとうはいいですね。例えば会議の開催件数とかですね。どこでの在外、その会議の出席メンバーとか、何かそんなのをちょっとあったほうが説得力があるんじゃないですかね。

【国際観光課長】 はい。

【観光渉外官】 業務実績報告書のほうでは具体的な例ということですね。

【分科会長】 載っていますか。じゃあ、ぜひ。

【観光渉外官】 ええ。ミュンヘンの総領事館の例ですとかいろいろございます。

【分科会長】 じゃあ、お願いいたします。よろしいでしょうか。

じゃあ、次、お願いします。

【国際観光課長】 次は、国交省が諸外国の政府と連携して実施する国際観光協議に対する協力ということでありますけれども、これは19年度の場合は、韓国等との協議に協力いたしました。それから、米国、カナダでの、アジアの政府観光局との共同事業も積極的に進めてきたところでありまして、これは着実な実施状況ということで、「3」と考えているところでもあります。

【分科会長】 よろしいですね。普通ですね。

はい。次。

【国際観光課長】 次は、VJC事業への参画において、国内の関連団体との連携・協調を図るということでありますけれども、農水省、これは日本食のプロモーションと観光

のプロモーションの連携であります。それから、法務省については、これは指紋押捺制度だと思いますが、その運用についてのプロモーションについて、海外で広報活動を行いまして、こういった連携・協力を行ってございまして、着実な実施状況ということで考えております。

【分科会長】 はい。よろしいですか。

では、次に行ってください。

【国際観光課長】 その次、「ナレッジマネジメントの確立」、これはグループウェアのところで評価済みということでありまして、その次の「事業成果の公表」というところで、プレスリリースだとかインターネットを通じて、広く国民に情報の発信・公開を行うということでもありますけれども、これは記者発表会の開催、プレスリリース等、機構全体で積極的な広報を行ってございまして、委員からは、「3」という評定を、意見をいただいておりますけれども、すぐれた実施状況にあるのではないかとということで、「4」をお願いしたいと思います。特に、理事長が定期的にインタビューに対応するというようなことも始めたところでございまして、こういった、従来なかった取り組みも19年度は始めたところですので、すぐれた実施状況ということではないかと思っております。

【分科会長】 よろしいでしょうか。はい。

【国際観光課長】 その次、附帯業務についてでありますけれども、これはJCCB、日本コンGRESS・コンベンション・ビューローについて、国際ミーティングエキスポ、それから、人材育成研修を実施して、JNTOが協力するというところであります。それから、国際観光テーマ地区の推進協議会の事務局業務についても、外部委託を進めるということでもありますけれども、これらについては着実に実施されているということで、「3」と考えております。

【分科会長】 はい。よろしいでしょうか。

【国際観光課長】 以上がサービスについての評価であります。次は、予算、収支計画、資金計画についての評価であります。まず最初は、自己収入の確保でありますけれども、これは自己収入の確保を図るということで、目標が書かれていたところでありますけれども、なかなか、自治体ですとか企業も財政状況が厳しい中、賛助団体、会員数とも増加させてございまして、自己収入の確保のためにすぐれた実施状況にあるということで、これは「4」をいただければと思っております。

【分科会長】 これは業績評価とか、何か具体的に数字は出ているんですね。

【国際観光課長】 はい。数字はこの中に。

【分科会長】 はい。じゃあ、よろしいですか。

次へ行ってください。

【国際観光課長】 それから、予算、収支計画、資金計画、これは、別冊になっておりますけれども、これらについては、着実な実施状況ということで、「3」と考えております。

【分科会長】 「3」ですね。収支計画も「3」ですね。

【国際観光課長】 はい。1枚めくっていただきまして。

【分科会長】 最後の部分ですね。

【国際観光課長】 はい。最後の欄ですね。最後の欄、外国人旅行者の来訪促進のためのビザの簡素化、輸送力の増強等、こういった国の施策について、JNTOが必要に応じて適宜募集を行うということでありまして、これはビジット・ジャパン・キャンペーンの現地推進会ですとか、観光2国間協議等の場で、JNTOが働きかけを行ってございまして、着実な実施状況ということで、「3」と。

【分科会長】 これは前のとダブリですのでね。

【国際観光課長】 はい。

【分科会長】 ということで、今、1個ずついって、あとでまたご議論をと言ったんですけれども、疑義のあるものがなかったんですけれども、全体としてまた見直すとおかしいとかいうのはございますか。現在のところ、変更はないんですけれども、どうでしょう。

【委員】 私も事前に手を挙げてなかったもので、今ごろから恐縮なんですけど、やっぱりコンベンションのところは、ちょっと世の中、厳しいのかなという感じがしたり、それから、受け入れのほうですね。これは「3」ですね。これは「3」かなと。というのは、やはり国民の目から見たときに、やっぱりこれを感じられないものは、できるだけ押さえたほうがいいんじゃないかと。むしろ感じられるもの。例えばウェブサイトの充実なのか、ほんとうに見た目にわかりますし、「4」ですけど、これなどは「5」でもいいんじゃないかなと思ったり。

【分科会長】 「5」はちょっと。

【委員】 「5」がないですからね。感覚的なものなんですけどね。あとは、eラーニング、これは結構、海外のeラーニングというのはとても効果がありますし、つくられるのは大変だったので、これなどはもっと高い評価でもいいんじゃないかなと。

【分科会長】 今、「4」ですか。だから、やっぱり「5」がなかなかつけづらいので、「4」になっちゃうんですが、むしろ、危ないとおっしゃった、「3」にしたほうが、というのはいくらでしたっけ。

【委員】 それは委員もおっしゃった人事考課ですね。これもやっぱり「3」でいいんじゃないかなと。

【分科会長】 何ページでしたっけ。

【委員】 ページは1ページですね。

【分科会長】 1ページ。

【委員】 はい。「職員の意欲向上と能力啓発」。

【分科会長】 一番上ですか。

【委員】 一番下ですね。失礼、大きいほうで見てました。

【分科会長】 2ページ。小さいほうですと、2ページの下ですか。これは「3」ですね。

【委員】 「4」じゃなかったですか。

【国際観光課長】 「職員の意欲向上と能力啓発」。

【分科会長】 2ページ目の上、これ。

【委員】 あくまで、すべて、やはり国民の目から見たときにわかりやすくというところで考えました。

【分科会長】 ちょっと最初聞き漏らして、どことどこどこでしたっけ。「4」、「5」というのはちょっとやめていただいて、「4」、「5」をなしにすると、どれでしょう。

【委員】 はい。そうすると、やっぱりコンベンションですね。コンベンション、「4」はちょっと厳しいのかなと。国際コンベンションの誘致及び体制支援。

【分科会長】 今、大きいほうで見ておられますか？

【委員】 すみません。一番最初の資料と見比べながら。

【分科会長】 大きいほうで言っていただくとどこですか。何ページ。

【委員】 大きいほうでいいますと、5ページから6ページにかけてですね。やっぱり4になっていますよね。

【分科会長】 6ページの上ですね。

【委員】 はい。そうです。

【分科会長】 6ページの上の4。それから？

【委員】 あとは受け入れのほうですけど、これはもう「3」になっていますので。ちょっと「3」も厳しいかなと思うんですが、「3」でよろしいと思います。

【分科会長】 はい。あとは人事考課云々。

【委員】 そうですね。これは「3」でいいんじゃないかなと思いますね。

【分科会長】 この大きいものでいうと、1ページですか。1ページの一番下ですか。

【委員】 はい。

【分科会長】 1ページの一番下。(2)というものです。

【委員】 それとeラーニングの……。ごめんなさい。あとで言います。

【分科会長】 どうぞ、どうぞ。

【委員】 はい。そのeラーニングも「3」じゃなかったですか。大きい項目で、訪日ツアーの開発。

【分科会長】 大きいほうで何ページですか。

【委員】 大きいほうで、4ページです。4ページの一番下です。

【分科会長】 4ページの一番下。「3」になっていますね。

【委員】 はい。私は、このeラーニングなどは「4」で評価してもいいんじゃないかなと。

【分科会長】 これが「3」。

【委員】 それから、旅行会社の販売員対象に93回セミナーを開催して、5,368人が受講というのは結構わかりやすくて。

【分科会長】 これは次、5ページですか。

【委員】 いえ、4ページです。

【分科会長】 4ページ。

【委員】 はい。訪日ツアー販売支援事業というところですね。下線を引っ張っていただいているeラーニングを活用した制度を導入したと。

【分科会長】 さっきのやつはこれですね。

【委員】 これを「3」から「4」にということですね。

【委員】 はい。

【分科会長】 これ？ 今、2つおっしゃった。もう一つ、どっちを。

【委員】 続けて書いてあるんですけど、この下線のeラーニングを活用したと。その下の。

【分科会長】 これは評価は一つですね。

【委員】 評価は一つです。両方とも非常にわかりやすく、結構残念だったんじゃないかなど。だから、総合点数としてはあまり……。

【分科会長】 こっちの小さいほうに置きかえますと、これですね。それから、これが。もう一つ何かありましたね。コンベンション。

じゃあ、ちょっと確認したいので、皆さんのわかりやすいというか、小さいほうに置きかえてよろしいですか。小さいほうに置きかえますと、2ページの一番上。ちょっと見てください。小さいほうでいって、2ページの一番上の「4」というものが「3」かなという話と、それから、5ページの一番下の「3」となっているのが「4」でもいいかなという話。それから、7ページの上のほう、「4」となっていますが、「3」かなど。この3点ということよろしいですか。

【委員】 はい。

【分科会長】 ということで、今、3点について、再度どうかという話なんですが、一個一個ちょっと見ていきたいと思うんですけども、一番初めは、小さいほうでいきます。2ページの一番上です。「職員の意欲向上と能力啓発」のところ「4」になっているけれども、「3」ではないだろうかということですけども、皆さん、ご意見どうでしょうか。

【国際観光課長】 その前に人件費のところ。先ほどちょっと場所が見つからなかったのが見つかりましたので、人件費削減になったのがどのぐらいいるかという話がありましたけれども、この「第1期中期目標に係る業務報告書」の中に、15ページをちょっとごらんください。15ページの真ん中辺なんですけれども、(1)で、「中期目標期間における取組み」で、「17年度～19年度」とありまして、ここのパラグラフの2行目の最後のところからですね。職員給与については、18年度に約3割の職員がすえ置き、または減額ということで、結果として給与体系の見直しも含めて、人件費削減ということでありまして、ほとんどの人が上がるような評価ということではなくて、3割ぐらいの人はすえ置きか下がるという事態になっております。

【分科会長】 それでは、議事に戻りまして、この小さいほうの資料ですけども、2ページの一番上の「職員の意欲向上と能力啓発」ですね。この部分の「4」評価は「3」かなという話ですが、皆さん、ご意見はいかがでしょう。

【委員】 評価官もいらっしゃるので、評価の方法でちょっとお尋ねしたいんですけど

ども、要するに、全体の状況の中で、その機構なり組織が主観的には非常に頑張ったと。だけど、周りの状況を見たら、全体として国民からは、外から見るときには、一緒に見えますから、まだまだだろうというふうに見えるときに、例えばそういうふうな評価をして、その理由づけをきちっと書いた上で、例えば全体の方針が悪くて、例えば「2」とか「1」になった場合に、どういうふうに解釈されるんでしょう。その組織の頑張りようが足りないというふうに解釈されるのか、やはり課題が我々に残っていると霞ヶ関が判断なさるのか。どうなんでしょう。

【評価官】 私たちは、実際に評価がどうなるかということについては、当然、分科会の先生方のご意見に従うところでございますけれども、基本はやはり頑張る、頑張らないじゃないんだと思うんです。基本は、中期目標を大臣が設定して、それに基づいて法人が中期計画・年度計画を作成する。その計画に基づき、法人がどのような実績を上げたかを評価することになります。

【分科会長】 数値ですね。数値まで議論すべきですね。

【評価官】 そうですね。つまり、実績がきちっとできているかどうかという評価がまず第一にあって、それに加えて、その実績の見方を、ある意味、例えば海外でこうやっているけど、日本ではこのようにやったから、この実績は評価できるというのが基本になってくるべきものであって、本来であれば、頑張る、頑張らないというのは、メインの話にはならないと思います。あと、国民の目の話も、それは当然意識しなければいけないことであることだと考えます。もちろん私の意見なので、これは別に先生方の評価を縛るつもりはありません。ちょっと、機械的になってしまうかもしれませんが、やっぱり原則、中期目標、中期計画の中にあると思うんです。ただし、国民の目から見ると、こういうことをやるべきじゃないか、新たなことに取り組むべきじゃないかとか、そういうご意見は当然おありになると思うので、そういうのは、例えば総合評価のところの意見のところいろいろ書き込んでいくとか、それぞれの項目の右側に意見を書くところもたしか設けられるはずですので、そういうところに書き込んでいかれたりするのが適当ではないでしょうか。委員には4つほど分科会に出させていただいておりますので、その辺の感覚をお持ちだと思うんですけれども。

【委員】 みんな微妙に違うんですよ。微妙にですけどもね。

【評価官】 わりとそうですね。はい。

【分科会長】 分科会ごとに相当ばらつきがあるのは確かです。私も複数出ていますか

らわかるんですけどね。それは間違えていると私は思いますよ。今おっしゃったのが正しいと思いますよ。

【委員】 　ただ、例えば、こういうことを申し上げるのは、例えば緑資源機構の評価委員の評価なんて、おおむね順調、というか、たしか順調だったんですよ。要するに、評価指標に従って粛々とやったじゃないかと、文句あるやつ、出てこいという評価委員会だと思えるんですよ。忸怩たる思いはあるでしょうけれども、だから、本来それは、この制度の趣旨にのっとっているのかというふうに考えたときに、そもそもという話になると、「いや、そもそも」ということに、評価するほうとしては、どうしても立ち返ってしまうわけですよ。適当に数値目標、達成できそうな数値目標。だって、達成できなかつたら、確実に1になるわけですから、そういう危ない橋はお互い渡りたくないから、適当に達成できそうなものを挙げておいて、募れば、「3」ぐらいか「4」ぐらいになると。そういう設定をするのであれば、何の問題もないと。いや、じゃあ、そもそもそういうことをするためにこういう制度をつくったのかというと、そうじゃないと思うんですね。だから、その辺のところをね。

【評価官】 　ご指摘ごもっともです。おっしゃるように、評点は、中期目標の書き方とか、中期計画の書き方に左右されることがございます。簡単に言えば、中期目標とか中期計画で、設定されている目標や計画の高さによって評定が高くなったり、低くなったりすることは事実です。それはある意味、今の独法制度で言われている問題点の一つでありますし、正直申し上げて、私もすべての分科会に出ていますけれども、やっぱり独法の系列によって大分点数が違うことがあります。研究系の独法に行くと、やっぱり評定は高くなって、業務系がその中間にあって、教育系が低くなるとか、そういうような傾向にあることは、やっぱり業務の内容によっても評定のつけ方が違ってくるといえるところがあるので、全く客観性を担保するのが難しいなというところはあるんですが、やはり基本としては、評定のつけ方は、やっぱり中期目標、中期計画、それから、年度計画にどうしても縛られてしまう。ただ、それだけで意見が終わるわけでは当然ないので、そこは総合評価とか、繰り返しますが、そういうところを書いて、活かしていただく。それで、そういうものを参考にしながら、また次の中期目標をつくっていく。このJNTOも第二期中期目標を策定されたばかりのところであると思うんですけども、そういうところに最後は生きていくものなんだなというふうに思います。

【分科会長】 　だから、やっぱり第1評価は、意見が分かれるところがあっても、やっ

ぱり数字なんですよ。やっぱりそれに準拠するというのがまず基本で。

【委員】 ほんとうにおっしゃっていることはよくわかります。我々としては、やはりこの計画と目標に基づいて、粛々と評価すると。結局落ちつくところはそれだと思んですが、やはりこのご時世、国民の意識というのをね。それはやっぱりこの5年間の間で、独立行政法人に対する国民の視点というのは随分変わったと思うんですね。それはどこかで忘れないようにして、やはり意見のところで書くべきところはきっちり書くという姿勢を持っておくことが必要かなと思いますね。

【分科会長】 そう思いますね。

【委員】 目標設定のときに我々が立ち会っているわけじゃないですからね。それを言うんだったら、やっぱり目標を粛々と、というんだったら、目標のときに我々、立ち会わせてもらわなきゃ、評価だけやれと言われたって、はっきり言って、意味ないですよ。

【分科会長】 案外、逆かもしれませんね。目標を立てるほうを評価すれば、今の逆の話で、低くしておいて、評価を高くするということになるから、つくる人と評価する人が違うほうがいいのかもかもしれませんね。

【委員】 本来は、だから、これは片手落ちなんですよ。ほんとうにしっかりした評価というんだったら、今、後さんとかがおっしゃっているポイントだと思うので、だとしたら、評価目標、目標設定のときに、これは立ち会っていて初めて評価というのは。

【評価官】 すみません。私はことしの4月からなのであれなんですけれども、第二期中期目標設定のときには、評価委員会のご意見を聞いた上でつくっておりますので、意見を聞いておられるプロセスが昨年度はあったと思うんですけど、そういうプロセスがあったはずですので。

【委員】 ありましたかね。

【評価官】 ええ。意見をお聞きした上でつくっていると。

【分科会長】 いや、これはもう過去の話しかないですよ。今の評価をやっているのは、第一期中期目標に対する評価ですから。このときは我々はいないですから。これをつくったときにはいません。

【分科会長】 ちょっと時間があれなので戻りますけど、これはいかがでしょうか。2ページ目の一番上の話、具体的にどうでしょうか。

「3」にしたほうがいいというのは、具体的にどういう。

【委員】 ただ、皆さんが「4」でいいと思われるようであれば。3割をマイナス評価

にされたというのは、民間では当たり前であっても、なかなか役所ではできないことだと思いますので、皆さんが「4」でもいいなということであれば、ここは「4」でも私は結構です。

【分科会長】 数字的な問題は、これは……。

【委員】 ちょっとこれは、「4」、「3」とつけるのが難しい。

【分科会長】 数字的な問題というのは、今のような数字なんですね。そうですね。

【国際観光課長】 これはここの項目は去年も「4」の評定をいただいていたしまして、ここは去年からさらに。

【分科会長】 悪くなったという話はないと。

【国際観光課長】 ええ。取り組みを進めてきたところでありますので。

【分科会長】 じゃあ、これは「4」のままにしてください。

【委員】 コンベンションのところは、私は「3」でいいんじゃないかなと思いますので。

【分科会長】 2点目は、小さいほうでは5ページです。5ページの一番下の「訪日ツアー販売支援」のところは、「3」になっていますが、「4」でもいいんじゃないですかというご意見ですが、これはいかがでしょうか。小さいところの5ページの一番下の「3」です。これを「4」かねという話なんですけど、これはむしろ、次とセットになるかな。7ページ。これはちょっと中身が違うから、失礼しました。これは別です。

だから、5ページの一番下の「3」、「訪日ツアー販売支援」。「3」というのは、これは可もなく不可もなくという意味なんですかね。いや、確かにご指摘のとおり、これは、これを見る限り大変高い評価になりそうな気がするんですが、内部、事務局としては、普通だということですか。

【評価官】 「3」は、着実な実施状況にあると。

【分科会長】 いや、このeラーニングとか、この中身は非常に画期的だとは思いますが、これは数字にならないということですか。

【国際観光課長】 これは数字というか、成果はまだこれからですし、eラーニングのシステムの整備も。

【分科会長】 そういうことなんですね。数字として出てこないということですね。

【国際観光課長】 目標として。

【分科会長】 ああ、そういうことなんですね。

【委員】 成果というのはどういう意味なんですか。

【国際観光課長】 これでもって、実際にツアーの商品が売れるようになって。

【分科会長】 ツアーが増えたとかいう数字はまだないと。

【国際観光課長】 はい。ただ、目標として、eラーニングを整備するというのが目標であれば、それは整備したらですね。

【分科会長】 整備したということであれば、普通だということですね。

【国際観光課長】 ええ。

【分科会長】 だから、やったことはすごいけど、目標どおりやっただけだ、計画どおりやっただけだという見方もあるんですね。あまり甘い点をつけるというのもあれだから、じゃあ、「3」のままにしておきましょう。

【委員】 これで、はい。

【分科会長】 最後に、7ページです。小さいほうの7ページの上のほうです。「国際コンベンション等の誘致・支援」で、「4」になっている。これは「3」じゃないですかというご意見で、これはもう一度理由を言っていただけますか。

【委員】 私ですか。はい。やっぱり国民からして、あまり、そんなに効果があったのかなということが体感できないというか、それはあまりそのまま出すと、みずから甘い評価委員会というふうにならないかなというところで、その意識の、国民の読んだ意識の問題です。ですから、皆さんがもし「4」だということであれば、先ほどのように明確に説得力のある説明を加えていただくか。

【委員】 これは数値目標に対してどうなっているんでしたっけ。ごめんなさい。

【国際観光課長】 数値目標は、会議70件、それから、インセンティブ274、これは達成しています。すみません。事務局からここの部分をちょっと説明させていただきたいのは、国民の目線という視点もよくわかるんですけども、評価委員会でいただく評価というのは、JNTOに対するメッセージにもなるというふうに私は考えておまして、このコンベンションの誘致については、この2年、非常にJNTOも国交省と一緒に苦労してきたというか、先ほど、頑張ったからどうだという話はあったところではありますけれども、なかなか体制、それから、そのデータが不十分なところを急ピッチで体制を立ち上げまして、国交省と一体となって、自治体の行脚だとか、それから、ウェブサイトの要望の受付だとか、こういったことを取り組んできたところでありまして、やっぱり国際会議の誘致、結局、主催者である学会だとか、そういったところの意識が一番大事ではある

んですけれども、国としては、JNTOを使っていかないとどうしようもないと。JNTOしかやってくれるところはないわけで、そこでやっぱり頑張ってもらいたいというメッセージを今回の評価でいただければというふうに考えているところであります。

【分科会長】 いかがでしょうか。

【委員】 あとは皆さんの。

【分科会長】 皆さんのご意見はどうですか。なかなか悩ましいところなんですけどね。ただ、よくわかるんですけど。数値目標は達成しているんだね。

【国際観光課長】 そうですね。70と380。

【委員】 去年は達成してなかったんでしたっけ。

【評価官】 いえ。業務実績報告書の40ページをごらんいただきますと、19年度業務実績報告書という厚い。そのうちの41ページに、目標と実績がそれぞれございまして、例えば平成19年度でいいますと、国際会議70、インセンティブ274という目標に対して、実績が70、インセンティブが370達成しているという形になってございます。

【委員】 一生懸命なさったというんだったら、たまにそういう数値にあんまり大きく増やさなくていいじゃないのと。おっしゃったようなあれでもいいと私は思いますけど。

【分科会長】 いや、数値はクリアされているんですよ。されていますよ。

【委員】 いや、というのは、例えば国際会議なんか増えてないじゃないかという話もあるわけですよ。インセンティブというのは大概、小粒ですからね。国際会議というのはかいですから。

【委員】 ただ、シャプマンも感受性がフランス人なので、自画自賛とか言われるところもあるんですけれども、単純に外部の声を拾ってみたら、ジャパン・パビリオンに対してなどは、結構評判よかったですね。なので、このカテゴリーが当てはまるかどうか分からないんですけれども、そうすると、逆に、もうちょっと自画自賛してもよかったのかなというように思ったんですけど、ただ、私も日が浅いので、あんまりその辺、厳しいな、もうちょっと盛ったほうがいいのかどうか分かりませんが、逆に私は、そちらの外の声から、ここにいろいろ書いてありますけどね。文字がたくさん書いてあるけど、そういうので結構評価していたというのがあるんですよ。

【委員】 私もまだ半分しかあれなんですけど、その国際会議というのは、仕込みが時間かかりますからね。

【分科会長】　　そうですね。

【委員】　　そう簡単には返ってきませんよ。ただ、インセンティブ等が明確に100件上がっているというのは、それなりの効果ですよ。

【分科会長】　　これは小タームですからね。努力すればすぐ出ますから。

【委員】　　うん。だから、国際会議は多分、これで出てくるのは、来年、再来年というレベルになるので。

【分科会長】　　もっとあとでしょうね。だって、今のスカウト・ジャンボリーだって、あれは15年ですからね。

【委員】　　まあ、極端に。

【分科会長】　　それを今喜んでいるというのは、そういうとき。そこで出てくる数字ですから、だから、全部ですよ。

【委員】　　だから、そういう意味で、先ほどおっしゃったJNTO、頑張れというインセンティブもちょっとつけなきゃいかんという意味でいえば、僕はこれは「4」でいいのかなという感じがしますがね。

【分科会長】　　はい。わかりました。じゃあ、「4」にさせてください。

【委員】　　はい。じゃあ、そののところしっかり書き込んでいただいて、説明のところ。

【分科会長】　　書き込んでください。そうしますと、結果的には全く変わりませんでしたので、最終ページにもう案が出ていますけれども、順調と。「極めて順調」じゃありませんけど、順調ということで、原案どおり評価ということでよろしゅうございますか。

はい。それでは、19年度はこれでよろしいですね。

【国際観光課長】　　はい。

【分科会長】　　では、次は大きい話ですね。いよいよ中期の取りまとめになりますので、第1期中期目標期間の業務実績評価に移らせていただきます。お手元にも資料が次にあると思いますので、今と同じように、それぞれの項目に。今度は中期ですから、簡単で結構ですから、一個一個お願いします。

【国際観光課長】　　はい。中期目標期間の評価について、分科会長案をご説明させていただきます。

まず、業務運営における効率化でありますけれども、一番上の欄……。

【分科会長】　　資料ございますか。似たような資料で、もう一束あるんです。

【国際観光課長】　　一番上ですけれども、ビジット・ジャパン・キャンペーンへの積極

的な関与ということでありますけれども、これについては、中期目標の最終年度、835万人と。14年度比では、521万人を60%増ということで、数字を順調に伸ばしておりますので、これはすぐれた実績を上げているということで、「S」ということでお願いしたいと思います。

【分科会長】 これはちなみに、資料で、隔年の、毎年の数字が載っていたものが。皆さん、お持ちでしょうか。大きいほう。

【国際観光課長】 これはA3の中期目標期間評価案参考資料というのがありますので。

【分科会長】 これに各年度の数字があります。これはもちろん、1、2、3、4という数字になっているんですけれども、おおむね「4」というのが「S」というふうに想定するというわけです。例えば今の部分ですと、15年から、「2」、「2」、「4」、「4」、「4」と。最後は、じゃあ、「S」ですねと、こういうことで。これとちょっと比較して見ていただきたいと思いますと思いますけれども、当然これは平均してどうかというよりは、この評価は、この中期ですから、後半のほうの重きはあります。初年度のほうは少し低くて、後ろのほうの評価は高いほうが比重が高くなるということで、ちょっと見ていただきたいと思います。

【国際観光課長】 このA3で説明したほうがよろしいですかね。

【分科会長】 そうですね。A3を見ていったほうがわかりやすいと。ですから、一番上が今、「2」、「2」、「4」、「4」の「S」というコメントになっておりますが、いかがでしょうか。

最後、5年のうち……。5年ですね。

【国際観光課長】 はい。

【分科会長】 5年のうち、後半3年が「4」ということですから、順当なところだと思います。よろしいでしょうか。

はい。次へ行ってください。

【国際観光課長】 次は、「組織運営」でありますけれども、これは評定案としては、一番右の欄ですけれども、シンガポールへの事務所の設置、それから、通訳案内試験の市場化テストの検討、それから、理事長出席の定例記者会見の実施等による国内広報の強化ということで、これは着実な実績を上げているということで、「A」と考えております。

これは過去3年、「3」、「3」、「3」と。

【分科会長】 これは過去、17年からの評価ですけれども、「3」、「3」ですから、

Aですね。

はい。次へ行ってください。

【国際観光課長】 次は、「職員の意欲向上と能力啓発」でありますけれども、実績の評価の仕組みの構築、それから、研修制度等の充実を図ってきたところでもありますけれども、先ほどご意見いただきましたけれども、19年度、「4」ということであると、「2」、「3」、「4」、「4」ということになりまして、これはすぐれた実績を上げているということで、「S」ということでお願いしたいと。

【分科会長】 この流れでよろしいですね。

はい。

【国際観光課長】 その次が、「業務運営の効率化の推進」でありますけれども、これも評価案、一番右の欄であります。京都TICの閉所、それから、ウェブサイトのレンタルサーバーへの移設、グループウェアの導入・活用に向けた取り組みで、業務の効率化を行ってきたところでもあります。それから、一般管理費・運営費交付金対象業務については、これは目標を上回る厳しい削減を行ってきたところでありましたので、すぐれた実績を上げているということで、全体として「S」ということでお願いできればと思います。これはかなり広範な欄が対象になりますけれども、後半年度においては「4」が多くなっているということで、「S」でお願いしたいと思います。

【分科会長】 はい。お願いします。

次へ行ってください。

【国際観光課長】 次、「人件費削減の取組み」でありますけれども、これは役員報酬についての段階的削減、それから、18年度については、先ほど言いましたように、3割の職員のすえ置き、または減額ということで、中期目標期間最終年度で、17年度比で、3.97%、4%近い人件費の削減を行いまして、すぐれた実績を上げているということで、これは「S」ということで考えています。

【分科会長】 これは「4」、「4」ですから、「S」ですね。

次へ行ってください。

【国際観光課長】 次が調査研究のところですね。「重点的な調査研究活動とその結果を活用した事業展開」というところでもありますけれども、これについては、訪日外国人の満足度調査と、これは新たな調査を始めまして、それから、これまでの調査結果についても、アンケート結果を踏まえて、項目の追加等の質の向上を図っているところでもあります。

それから、調査統計の刊行物の新規情報掲載量についても、14年度比の情報量の増加の目標を達成しております、これはすぐれた実施状況にあるということで、「S」ということで考えています。

【分科会長】 「3」、「4」、「4」ですから、「S」にします。

はい。次へ行ってください。

【国際観光課長】 その次、「外国人旅行者の来訪促進に係る施策」でありますけれども、これはJNTOのウェブサイトのコンテンツ、リンク先の拡充を行った結果、アクセス件数は大幅に増加しております。それから、メディア広報についても、広告費換算額で、14年度比で、これも4倍以上ということで、大きく増加しております、すぐれた実績を上げていると認められると思います。これも「S」ということで。

【分科会長】 初め、「2」になっていますが、あと、後半3年、「4」ですから、「S」にします。

【委員】 すみません。ちょっと注文なんです、例えば評価結果「S」、これはこれで、その根拠が、195%増加というふうに書いてありますが、要するに、本来の中期計画との関係で、その何%だったのかとか、何割だったのかとか、何倍だったのかというのがまさに中期計画全体の数字を出して、明示していただければ、ひと目でわかるので、ほかの部分でもそういう部分がありましたら、中期計画の目標の何%、何倍というような書き方に加えていただけたらというふうに思うんですが。

【分科会長】 そうですね。お願いします。

はい。お願いします。

【国際観光課長】 次が、「訪日ツアーの開発・造成・販売に対する支援事業の実施」ですけれども、訪日ツアーの開発・造成については、これも中期計画の目標の最終年度で、34万人ということで、目標を上回っています。これは中期計画の目標は、これは「中期計画」の欄で一番下ですね。このページの一番下ですけれども、この中期計画、当初のところ、ツアーの種類だとか設定本数、設定したもので、うち実際に出発したもの、それから、集客数を50%という、非常に細かい設定がなされていたところでもありますけれども、50%増加。まず、このいろんな細かい指標を加えるのはやめまして、もうその集客数だけで考えようということに途中から変更がなされました。この50%増加というところについては、はるかに上回る。達成度合いで、34万人という数字になっているところがあります。

【分科会長】 しかし、中身は「3」がほとんど多くて、「4」というのは、1個ぐら
いしかないんですね。総合評定は「A」ということになってしまいます。

【分科会長】 さっき評価案の話がありましたけれども、研究系では、大変、あっと驚
くような評価が出てくるんですけれども、我々のところはある程度ね。

【委員】 研究系はなぜそうなっちゃうかという、プレゼンがすごいんですよ。日ご
ろ鍛えているので。

【分科会長】 ほんとうに驚くんですよ。

【委員】 だから、中身があるかないかじゃないんですよ。ないけど、いいと言ってい
るんじゃないかと、いや、ほんとうにその気になるんですよ。

【分科会長】 研究所の評価は、みんなばか高いんですよ。

【委員】 やっぱり自分たちが精根込めてやっていることなので、説得するときに、プ
レゼンするときに、すごい説得力を持つんですよ。

【分科会長】 これは説得力ありませんので、「A」ということで。

【委員】 これはジャパンキャンペーン全体でやっているの、JNTOだけの成果で
はないというところがあるわけですよ。

【分科会長】 そうですね。人の要因も多いんですよ。「A」にしましょう。別にそ
んなにあれですね。

はい。次へ行きましょう。

【国際観光課長】 「外国人旅行者の受入体制の整備支援」。これは先ほど議論されま
した、「i」案内所あるいはビジット・ジャパン・キャンペーン案内所についてですけれ
ども、数値目標を達成できなかった年度もありますけれども、これは早期に目標を達成し
て、新たにチャレンジングな目標を達成したためでありまして、全体としては着実な実績
を上げているということで、これは「A」ということで考えております。

【分科会長】 これも「3」ですから、「A」ということになります。

はい、次。

【国際観光課長】 次は、「国際コンベンションの誘致」になりますけれども、これが
国交省と各自治体の訪問を行ったことと、その連携をとって、きめ細かな誘致戦略を立て
て実施していること。それから、ウェブサイトで要望を受け付けるコーナーをつくりまし
て、国内の学会・協会のニーズを把握する体制を構築したこと、それから、インセンティ
ブ旅行については、アジア地域でセミナーを実施するなどによって、着実な効果を上げて

いるということでありまして、これは最終年度が「4」ということでもありますけれども、全体として、評定としては、「S」をお願いしたいと思います。

【分科会長】 よろしいでしょうか。

じゃあ、次。

【国際観光課長】 次は、「通訳案内士試験代行業務」でありますけれども、これは受験言語の追加、外国での試験実施、それから、試験免除制度の拡大、電子申請の導入等、すぐれた実績を上げているということで、これは「S」と考えております。

【分科会長】 はい。「4」ですね。

【国際観光課長】 その次は、事業の再編、それから、業績評価の充実ということで、外部有識者による業績評価と、それから、顧客満足度調査によって、事業パートナーの満足度が高まるということで、着実な実績を上げているということで、「A」をお願いできればと思います。

【分科会長】 ほとんどオール「3」ですから、「A」ですね。はい。

【国際観光課長】 次は、「人事考課の徹底」でありますけれども、これは全職員対象の面談等で、人事考課を決定しておりまして、これは着実な実績ということで、「A」と考えております。

【分科会長】 これも「3」ですね。はい。

【国際観光課長】 それから、「外部人材の活用」につきまして、これは中途採用、それから、自治体、民間企業との人事交流も積極的に進めておりまして、着実な実績を上げているということで、「A」をお願いしたいと思います。

【分科会長】 はい。

【国際観光課長】 それから、海外の在外公館、それから、海外の政府、観光関連機関との連携の強化でありますけれども、在外公館の連携を図るとともに、ビジット・ジャパン・キャンペーンの現地推進会の運営で、事務局の機能を果たしております。それから、関係企業と連携した事業展開を図るということで、すぐれた実績を上げているということで、これは「S」をお願いしたいと思います。

【分科会長】 後半は「3」、「4」ですね。はい。

【国際観光課長】 その次は、「情報の公開」のところになりますけれども、インターネットを通しまして、情報公開を着実に実施しているところでありまして、事業の状況、成果に関するプレスリリース、ウェブサイトの掲載で、一般紙あるいはテレビで取り上げ

られる件数が大幅に増加しているところでもあります。これはすぐれた実績を上げているということで、「S」をお願いしたいと思います。

【分科会長】 はい。「SS」にはならないんですね。ニュアンスとして、「SS」かと言っていますが、そうはならないと。

はい。次へ行ってください。

【国際観光課長】 「財務内容の改善」に関する事項であります。賛助団体・会員数とも厳しい中で増やしてきておりまして、それから、JNTOの外国語ウェブサイトで、バナー広告の有料化も行っているところでもあります。さらに、これまであんまり縁のなかった百貨店ですとか小売店、電器の小売店だとか、そういったところにも会員の加入を働きかけまして、すそ野の拡大に取り組んでいるところでもあります。これについてはすぐれた実績を上げているということで、Sをお願いしたいと。

【分科会長】 よろしいですね。

じゃあ、最後かな。

【国際観光課長】 はい。「その他」、これは現地市場動向の調査等を行いまして、査証手続の簡素化を図るといったようなことで、着実な実績を上げているということで、これは「その他業務運営」でありますけれども、「A」ということでお願いしたいと思います。

【分科会長】 はい。ということで、これまでのところは、「2」とか「3」とか「4」の数字の流れから順当なところで、こうだなということになりました。改めてこの小さいほうに戻っていただきまして、「分科会長試案」と書きましたA4の小さいほうの中期目標、この後ろから2枚目を見ていただきます。想定しておくのはあれですけど、たまたま試案どおり結果が出ましたので、これに基づきますと、分科会長試案というのが委員会のほうに提出することにしたいと思います。これについて補足の説明はありますか。いいですか。書いてあるとおりですね。

どうぞ。

【委員】 すみません。2ページ目の。

【分科会長】 大きいほうの。

【委員】 大きいほうのですね。2の(3)の「業務運営の効率化の推進」の説明のほうなんですけど。

【分科会長】 2ページ目の。

【委員】 2ページ目の一番上ですね。(3)、この説明のほうなんですけど、「京都T I

Cの閉所」というのは、やっぱりこれは要りますでしょうか。確かに、資源の重点的配分ということで大きな効果があったと思うんですが、別の見方をすると、サービスの低下とか、これはあえて必要があるのかなという。

【分科会長】 書く必要が。

【委員】 というのはやはり京都ではかなり、反対の意見もありましたので、これをもって「S」とするということを言う必要があるのかなというような感じが。

【分科会長】 資源の活用というのに注目したんだろうけどもということですね。

【委員】 ええ。こちらからすると、そうなんですが、受け手のほうからすると、すなわち自分のほうからすると。

【国際観光課長】 これは例示を落とすということですか。

【委員】 はい。必要なければもう。

【分科会長】 「京都T I Cの閉所」というのはむしろマイナス要因じゃないかと。

【国際観光課長】 これはJ N T Oでもそれなりの調整の苦労はあったんですけども。

【委員】 ええ、よくわかります。

【国際観光課長】 受けとめ方として、今おっしゃったようなことがあるというのは聞いていますので、例示としては落とすということで結構です。

【分科会長】 そうですね。はい。

ほかにご意見ありますか。どうぞ。

【委員】 大きいほうの紙でいうと、どこになるのかな。

【分科会長】 何ページですか。

【委員】 後ろから4枚目です。

【分科会長】 後ろから。はい。

【委員】 後ろから4枚目の「国際コンベンション等の誘致・開催支援」というところで、評価が「S」で、別に評価はこれでいいかなと思うんですけども、各年の評価が、「2」、「2」、「3」、「3」、「4」ですよ。ですから、先ほどのお話で、全体、このバランスで、評価案が決まるとすると、ここだけちょっと甘い感じがするので、もしこれでいいんだったら、何かここがこういうふうになるということを、初期のところでは、なかなか成果が上がりにくい。先ほどのような国際会議誘致とかね。長期に時間がかかるからとか何とか、何か理由がないと、こここのところの「S」だけが、ちょっと突出しているような感じがしますよね。

【分科会長】 確かにこれは、おっしゃるとおり、普通はみんな「4」が4個ぐらいあるんですね。

【委員】 ほかはね。「S」になっているのは。

【分科会長】 ええ。これは最後、しり上がりに1個というので、ちょっと違和感。

【委員】 ええ。ですから、これを評価するんだったら、私は「S」でもいいとは思いますが、だしたら、それが説明されるような文章にちょっと加筆されて。

【分科会長】 補強説明が要るかな。

【国際観光課長】 国際会議の誘致というのは、この2年、力を入れてやってきていまして、逆に言うと、それまではビジット・ジャパン・キャンペーンのほうにかかりっきりだったんですね。2006年の9月に、安倍総理の所信表明演説で、国際会議を増やすと言われたので、実質やってきたのがこの最後の2年の、「3」、「4」というところですね。

【委員】 なかなか成果が出ないですね。ですから、そういうことも、どう書いたらいいのかわからないけれども。

【委員】 これがもしAになれば、全体の評価は変わるんですか。

【分科会長】 これだけだと、さっきいろいろ計算したんですけどね。これだけだと、実は変わらないんです。変わらないので、最後の落としどころは、というふうに私は覚悟して出てきたんですが、いかがでしょうか。

【委員】 これは「A」にして変わらないんだったら、これは「A」というのは。

【分科会長】 ぎりぎりですけどね。やっぱりそうですね。

【国際観光課長】 ここは。ただ、またその繰り返しになるんですが、国際会議については、やっぱりJNTO、頑張れというメッセージをお伝えしていただければということ。

【分科会長】 なるほど。

【国際観光課長】 最後の1年頑張ったということではなくて、これはやり始めたのがちょっと遅かったというのはありますけれども、「S」を維持していただければと。

【分科会長】 活動の分量と成果の分量というのは、これはかなり、時間としてずれるというようなことは、普通の人はわかりづらいですね。知らない者は。だから、その辺の説明を加えてということにしましょうか。

【国際観光課長】 そうですね。さっきのボーイスカウトの誘致の成功とかですね。

【分科会長】 ええ。15年の話ですからね。

【国際観光課長】 あといくつか、JNTOが関与して成功に、成果がありますので、その辺を説明させていただいて。

【分科会長】 ええ。もうそういうものなんです。確かにね。それが説明されないと、もう西村委員のおっしゃるとおり、おかしいじゃないかと。「4」が1つしかないじゃないかということになりますから。

【委員】 数値だけだとね。

【委員】 あと、数値目標との関係で、しつこいですが、中期計画の当初の50%を増加させるという数値目標に関してはどうだったのかというのは必ず記述が要りますよね。

【分科会長】 この部分はどうでしたっけ。今のことに。

【国際観光課長】 中期計画のところに一応もとの目標は掲げていますので。

【委員】 だから、その評定のところにね。

【分科会長】 評定のところに記述したほうがいい。

【委員】 それに関して、ついていないので、言及していないので。見るほうは、当然の前提として、超過達成しているというのはわかるんですが。

【分科会長】 数字は達成しているんですよ。

【委員】 ええ。わかっているんですが。

【分科会長】 だから、書けばいいんですね。

【委員】 そうですね。だから、なるべく形容詞は、大きく増加したとか、形容詞はやめていただいて、大きいということの数字を。何が大きいのか。

【分科会長】 デジタル表記をしてくれと。

【委員】 なるべく評価は形容詞抜きでやっていただけたら。

【分科会長】 「すばらしい」とか、そういうのはあんまりよくないですね。「著しい」とかね。

【委員】 「おおむね」とか「着実」にも気持ち悪い表現なんですけど、それは我慢して、そういうルールだから、我慢して見ているんですが、どこがどう「着実」なのか、「おおむね」なのか。

【分科会長】 じゃあ、そうしてください。いわゆる成果と努力内容と、それから、その成果の実現というのは、この分野においては大きく実際があると。ということは、ほんとうはそういう数字を出すと、だめというか、逆になったら怖いと思うんですけどね。普

通の企業とか、あるいは普通のこの会議場とか、具体的なね。私がよく今、つき合いがあるのは、ナカムラさんのところですね。京都国際会議場。あれは受注残がみんなあるんですよ。いわゆる何年先に何倍というものがね。当然その受注残を見ているんですね。それはことしの数字なんか今騒いだってしようがないわけですね。大体3年先ぐらいのところが終わってなきやいけないわけですよ。だから、もう10年先に何ぼ入っていると。それで、来年の実施はもうほとんど動かないわけですから、そういう受注残方式の成果の出し方が、普通、企業の中では当たり前なんです。販売会議やっていて、ことしは会議が何ぼありましたと。こんなことやってもどうしようもない。これは経理だけの話で、経理部が関係あるだけで、営業としては、もう3年先の数字しか関係ないんですよ。だから、販売会議は全部先物ですよ。受注残何ぼと。確かにこれを出して、えらい悪かったということになると困るから、あんまり言わなかったんですけど、どうですかね。出してみたらえらい悪いということになるでしょうね。先物は。

【国際観光課長】 先の数字ですか。

【分科会長】 うん。先の。

【国際観光課長】 先の数字はちょっとまだ把握し切れていないところがあるので。

【分科会長】 把握していない？

【国際観光課長】 いや、する試みは始めて、データベースは整理し始めていますけれども。

【分科会長】 その辺がやっぱり意識が違うんですよ。これは普通の企業ベースなら、絶対先を見えています。

【国際観光課長】 ええ。コンベンション・ビューローなどは3年先でも何でも見ているんですね。そこに調査をかけるというのをまだ始めたばかりで、過去の実績は随分網羅的に把握できるようになったんですけども、何年先までというところまではまだちょっと。これからで。

【分科会長】 今回のこの評価実績とはリンクしなくて結構ですから、絶対これは受注残の管理というのをやらないとだめですよ。ハツパのかけようがないですよ。これこそ民間のセンスでしょうかね。特にこういう息の長い仕事は絶対ですよ。

【委員】 でも、明確にこういうふう目標がある機構というのは、見ていていいですね。

【分科会長】 わかりやすい。

【委員】 はい。例えば政府系の金融とかは、評価のご説明を聞いていても、明らかに勢いとかが全然違って、しょうがない、やっているんだよというような。

【分科会長】 要するに、あれだ、作文力ですよ。

【委員】 だから、何かこう、いろいろ……。

【分科会長】 聞いていてもむなしいですね。

【委員】 はい。独法の中で、こちらの分科会というか、この機構さんは、すごくいろんな情報発信もすごいですし、明らかに違うなというのが感じますね。

【分科会長】 イメージはいいですよ。しかし、それを今度、我々以外にうまく伝えていただくということがですね。

【委員】 でも、太鼓持ちになりたくない。

【分科会長】 いやいや、だから、我々じゃなくてね。もう少しこの外部の説明自体も。上手にPRしていただくほうがいいと思います。

【委員】 そうですね。もうちょっと押し出せるところは押し出して、課題は課題として明示。なかなか難しいでしょうけど、していただくとわかりやすいです。

【分科会長】 はい。ということで、下げてもいいんですけど、下げませんということで、そのままですが、今の機構といたしますか、仕組みの説明だけはきちんと出して、なおかつ、記載する必要はないけど、次の宿題としては、受注残管理をやるということを導入してください。

【国際観光課長】 はい。

【分科会長】 ということで、あと、特になければ、これは時間もあれで、分科会は閉会とさせていただきます。19年度業務実績評価につきましては、本日の分科会の議決結果を評価委員会の木村委員長あてに通知します。中期目標の実績評価につきましては、ここでは決められませんので、8月26日に評価委員会が開かれます。そこに分科会の案として出させていただきます。

ちなみに、26日、この中で、評価委員会にご出席の方はいらっしゃいますか。出ますか。出ない？ 案内は行っていると思うんですけど。

【評価官】 臨時委員の方には行っていません。

【分科会長】 行ってない。じゃあ、もちろん私が出ますから、ひとつ援護射撃。少ない援護射撃を。

【委員】 この実績評価とは直接関係ないんですけども、一般的な話をちょっとして

いいですか。皆さんにもちょっと話を聞いていただきたいので。

【分科会長】 はい。どうぞ。

【委員】 観光庁が10月に発足しますよね。観光に対する期待というのも非常に大きいし、実績もかなり出始めていますよね。申し上げたいことが3点ありまして、まずこの独立行政法人均衡縮小の枠組みの中から、私はJNTOをぜひとも外したいと。外してほしいと。

【分科会長】 でかい話です。

【委員】 そうそう。それがないと、観光立国だとか、観光庁だという、それと全く逆行しているわけですよ。これはおかしいですよ。論理的な行く末のない。だから、ほんとうに国民が、やっぱり観光立国というか、そういうことを認識を高めていくためにも、僕は独立行政法人均衡縮小傾向の中から外して、これは具体的にはどういうやり方があるのか、僕はよくわかりませんが、ぜひそこら辺は官僚の皆さんがしっかり方策を考えていただいて、これはやっぱり予算も組織もビシッとしたものに、マーケティングのほんとうの力をふるえる組織にしていかなないとまずいと思うんですよ。こんなちまちましたといったら怒られちゃうけど、業績評価のときは、重箱の隅をつつくようなことをやるよりも、やっぱりそういう大枠をざっくりやって、そこで飛躍的なジャンプを目指せるような、これをぜひやってほしいというのが第1点です。

それから、第2点は、ツールド日本ということをお前はさんざん言っていて、ようやく日本政府観光局ということを出し始めてくださっています。ありがとうございます。これはひとつ、これはオーケー。それから、外国向けに、ぜひとも、ツールド日本という、JNTOでなくて、ツールド日本。ここも、これはわりと外国では、ツールド何々という一般的な名称になってきているので、PR上でも、ツールド日本というのをぜひやっていただけたら、大変ありがたいと。

それから、3点目、これは最近、国交省の皆さんは、2020年に2,000万のインバウンドということをおっしゃり始めていますよね。

【分科会長】 導入されていますか。私はどこかから聞いたんですけど。

【国際観光課長】 2020年に2,000万を目指す中長期的な戦略を策定すべきであるという意見を観光立国戦略会議からいただいたんですね。

【分科会長】 戦略会議からいただいた。

【委員】 北大に絡んでいるから、ロフトアンビションというわけじゃないんですが、

2020年に2,000万と、目標数字としてはいかにも小さい。過去5年間見ても、90%アップになっているわけですよ。多分、来年で5年目に行きますけど、915万。もう前倒しもいいところですよ。

【分科会長】 それは前倒しになるんですね。

【委員】 もう前倒しもいいところですよ。だから、5年間で80%ないし90%ぐらいは確実にいらっしゃるわけですね。これは日本のインバウンドの数字というのは、諸外国と比べても異常に低いというのは明らかなので。

【分科会長】 ですよ。

【委員】 これは向こう5年で、つまり、2010年から2015年の間に、今の勢いでいけば、2,000万は確実にいけると思うんですね。多分、観光庁ということで気合いが入って来始めると、昨今の情勢、特にアジアの観光情勢が非常にブームというか、わき立つような状況になってきていますので。

【分科会長】 かつての日本と一緒にですね。

【委員】 うん。だから、これは僕は、2015年2,000万というのは、そんなに難しくない。それからちょっとスローダウンしたところでも、2020年3,000万というのが、僕は非常にかっこいい数字だし、みんな頑張れる。僕はあんまり数値目標を言うのは好きじゃないんですけど、人数人数でね。だけど、とにかく人数で走ってきちゃっているんで、それをさらにあれするとしたら、2020年の数値を出すとすれば、3,000万ぐらい出さないと、ちょっと観光庁としても格好がつかないだろうと。そのぐらいは成り行きで行っちゃうんじゃないのという感じですよ。2020年2,000万は簡単に。だから、意図的にしかけをしていって、結果を出すという、先ほど目標数値ということに関連してきますけれども、というならば、ぜひとも僕はJNTOも国交省も観光庁発足の第一声で、2020年3,000万ということをきちんと行っていただくと、非常にうれしい。我々もやりがいがあるなという感じがするんですが。

【分科会長】 総合観光政策審議官に言っておいてください。

【委員】 ほかの委員の皆さんのご意見もちょっと伺いたい。

【委員】 ほんとうにそのとおりだと思いますね。

【分科会長】 委員が3,000万と言っていたら。

【委員】 一番は26日に委員長、分科会長がおっしゃる話ですね。

【分科会長】 あれはどうなんですか。今まで分科会長の発言ないですよ。事務局説

明ですよ。ないですよ。何か攻撃されたときですよ。

【委員】 攻撃された。いやいや、そんな。

【分科会長】 いやいや、今までもありますよ。あれはよく研究所系で、何か「A」が3つで、「B」が何ぼかで、評価が「SS」とか、それで、これはどうなっているんだと言って、ありましたよね。ああいうときに助けてくださいね。

【委員】 そういうのもありましたっけ。

【分科会長】 2年ほど前にありましたよ。

【委員】 そうでしたっけ。

【分科会長】 ええ。あんなことがなければ、大体順調に行くと思いますけど。これは今回、何分科会ぐらいあるんですか。俎上についているのは。中期の。

【国際観光課長】 6件です。

【分科会長】 6件。中期のあれは6件です。今、よその下馬評を見ると、すごいですよ。「SS」とか。極めて順調というのは「SS」じゃないの。違う、違う、これは19年か。「SS」はないな。もう今さら「SS」を出してくることはないでしょう。多分、もう倒されるとわかっているから。

【委員】 その点で、先ほどの研究所系がすごくプレゼンテーションがうまいとおっしゃいましたよね。私の感じでは、予算獲得のところで、研究費獲得のところで、すごくそれは競わされるわけですよ。

【分科会長】 科研費。

【委員】 科研費とか、それから、JSPS、学術振興会で、高いお金のものは、5分間で億単位のものを競争しないといけないみたいな。

【分科会長】 金額がまたでかいんだ。大きい金額で。

【委員】 そうなんですよ。ですから、ある意味、そういう予算獲得のところで、ある程度競争が働くようなことになっていると、そういう外に対する情報発信というのはすごくよくなると思うんですね。こういうのができるかどうかわからないけど。下がるところだけパッと行って、ここだけというのはなかなかね。やっぱり緊張感が。

【委員】 その金額が評価基準になっているからですよ。

【委員】 そうですね。だから。

【分科会長】 そうですね。評価基準、即、予算で。それは頑張るよね。

【委員】 数字に直結しているから。

【委員】 ある部分は民間開放して、J N T Oも含めて競争させるとか、何かやると緊張感が出るかもしれない。

【委員】 ただ、私、まだいいのかな。

【分科会長】 いいですよ。

【委員】 そのときにいつも、研究系のところでいつも感じたんですが、要するに、すぐ金になる研究なら民間でやってくださるわけですよ。ほんとうはそうじゃないところで、だれも手が出せない、出したいけど、出せないところを選んでやってくださるのが本来の役割なので、それをむしろ選ぶというのが本来の存在意義だと思うんですけども、そういうふうに競わせているものですから、すごくブームになっているとか、とりやすいとか、そういう趣旨で、ザーッと動き始めたので、その金額自体は微々たるものなんです。全体の予算の、ほんとうに二、三%、行くか、行かないかなのに、それに全体がシフトしちゃうものだから、じゃあ、あと97%の税金使っている意味は何なんだというのが、その意味がすっぱり抜けて、その小さな獲得金額で競わせているから、本末転倒になっているんですよ。あれはすごく問題だなというふうに思うんですけどね。

【分科会長】 どなたかに言っておいてください。

【評価官】 評価の中身は、私も、よくわからないところではあるんですけども、見ているとやっぱり、研究が説明しやすいというのは確かにあります。例えば、もともと中期目標で設定されている研究をやりましたが、これはやり方を工夫して非常に、実は世界的にも画期的なもので、大変評価が高いんですといった評価がしやすいと思います。

【分科会長】 そうかなと。これはノーベル賞ものと。

【評価官】 ええ。というところを研究系は説明しやすいんじゃないかなというふうには確かに思います。先生が言ったように、競争的なものだけで評価しているんじゃないよな感じはするんですけど。

【委員】 もちろんそうですが。

【評価官】 はい。

【委員】 ただ、そういうふうに押されていますからね。全体としての雰囲気があつて。

【評価官】 もちろんプレゼンテーションをかなりやっていることは事実だと思いますけど。

【分科会長】 それでは、事務局、何かございますか。

【観光渉外官】 前回、第11回の議事概要を、一枚紙でございますけれども、配付し

ておりました、公表用の資料でございますので。

【分科会長】 これは公表は終わったんですか。

【観光渉外官】 今、これで皆様にご確認していただいて、何かございましたら、8月8日までに事務局までお願いいたします。その後、公表させていただきます。

【分科会長】 はい。じゃあ、どうもありがとうございました。26日は、今度、私じゃわかりませんが、後ろのほうに座らせていただくことになりますので、皆さんの意見を代弁して頑張るような。

【委員】 頑張ってきてください。

【委員】 3,000万、ぶち上げてきてくださいよ。

【分科会長】 じゃあ、どうもありがとうございました。

— 了 —